

# 紅清水(べにしみず)

登録番号：第365号

育成者：岸 清

登録年月日：昭和58年2月24日

来歴：「森上白桃」と「清水白桃」の

登録者：株式会社 山陽農園

混植園から生じた偶発実生

(岡山県赤磐郡山陽町五日市215)

## 特 性

### ■栽培特性

樹勢はやや開張性で、結実量が多くなると下垂するようになる。樹勢は「白鳳」よりかなり旺盛である。樹の大きさは中程度。花芽の着生は良好で複芽が多い。中・短果枝における葉芽の着生は「大久保」、「清水白桃」より多いため、結果枝の切り返しが容易ではげ上がりが少ない。しかし、過繁茂となりやすいので冬季せん定をやや強めに行うとともに夏季せん定を励行する必要がある。

若木時代から大果となり、しかも結実量が多いため、ややもすると着果過多に陥り、小果になりやすいので摘みや早期適正摘果に努めることが肝要である。とくに主枝・亜主枝先端部の着果を多くすると下垂が顕著となり、わん曲部の上部から強大な徒長枝が立ち出し、樹形が狂ってバランスを失い、樹は次第に衰弱してくる。このため、支柱を立て、先端部の着果を制限する必要がある。

開花は「白鳳」と同じく中位。花は普通咲きの一重で大きく、不完全花は無い。花粉が多く実止まりが良好で下枝まで大果となり、玉揃いが極めて良い。生理的落果は少なく、豊産性で収量が安定している。果皮の着色は良好である。なお、有袋栽培の場合、成熟直前になってから果皮の地色が緑色から乳白色に変化するため、収穫が遅れがちとなる。一方、無袋栽培では早くから全面に着色するため早採りしやすい。それぞれ適期の収穫に努める必要がある。白桃系品種と同様に窒素過多、遅効きにより品質が著しく低下するので施肥量に注意を要する。

### ■果実特性

果実は円に近い扁円で、約280g。果皮の剥離性は容易である。果面の毛じは短く密である。肉質は溶質で柔らかく、繊維は少ない。甘味は中～多(屈折計示度で13度程度)で、酸味は極めて少ない(pH4.9)。渋味、苦味は無く、香気は中程度感じられる。果汁は多い。核周囲、および果肉内の着色は少ない。

核は粘核で、核の大きさは極大、短楕円である。裂果、核割れは少ない。

成熟期は満開から101～110日の範囲にあり、岡山県南で7月下旬で、「大久保」とほぼ同時期で、「白鳳」に次いで成熟する。果実の日持ちは中～やや不良で、輸送に注意を要する。

### ■病虫害抵抗性

いば皮病にやや弱い傾向がある。若木時代に主枝、亜主枝へ十分薬剤散布し、防除を徹底すれば、発生が抑えられる。梅雨時期の防除が大切である。せん孔細菌病、黒星病には、「白鳳」より強く、中程度である。

### ■地域適応性

砂質壤土、粘質壤土ともに適するため、栽培地域の適応性は広く、東北部～九州まで栽培は可能であると思われる。また、暖地において成熟期が梅雨期に重なる地域は糖度が上昇しにくく、日持ちが悪いため、栽植については十分留意する必要がある。

(笹辺幸男)